

受験生の夏休みの過ごし方を考える

—約 40 日間の夏休みが終わったあと、学力を飛躍的に向上させるためのポイントとは—

開倫塾

塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。

明日の 7 月 21 日・日曜日は、国会の 1 つである参議院議員の選挙です。参議院議員選挙では、20 歳以上の方が選挙権、つまり国民全体の代表としての参議院議員を選出する権利を、日本国民の基本的人権の一つとして持っております。ですから、有権者の方は選挙権を行使するために棄権をせずに投票会場に行き、国民の代表としての参議院議員としてふさわしい方をお選びいただきたく思います。もしも明日忙しい方は、今日、不在者投票ができますのでよろしく願います。日本国のこれからを決する大事な選挙ですので、くれぐれも棄権のないようよろしくお願いいたします。

2. この番組では、私が、不足する勉強を補うために様々なところに出掛け、見たり聞いたりして自分で考えたことをとりまとめ、時々には社会人の方々に向けたお話もさせていただいています。ただ、基本的には、社会人も含め学校で学ぶ方々、受験生の皆様のために効果の上がる学習の仕方、方法とは何かを皆様とご一緒に考える番組です。

3. さて、早いところではこの夏休み頃から、また、本格的にはこの秋から、さらには来年の 1 月から 3 月にかけて私立中学校受験、中高一貫校受験、高校受験、大学受験、短期大学受験、専門学校受験、大学院受験といろいろな受験がありますので、今日は受験生の皆さんの夏休みの過ごし方について少しお話をさせていただきます。

4. 夏休みの過ごし方を考えるときに一番大事なことは、この夏休みが終わり 2 学期になったらどのようなことがあるか、タイム・スケジュール、日程表をよく眺めて大切な日程はしっかりと頭に入れて夏休みを過ごすことです。

5. (1) 例えば、高校入試を受ける受験生である中学校 3 年生の方は、2 学期になると様々な学校行事があります。運動会、文化祭、いろいろな発表会とたくさんの行事があります。

(2) また、定期テストがあります。

① 3 学期制の学校では 2 学期の中間・期末テストがあります。

② 2 学期制とは 1 年を 4 月～9 月、10 月～3 月の 2 つに分けることで、県内にも 2 学期制の学校がたくさんあります。2 学期制の学校では夏休みが終わるとすぐに前期の期末テストがあります。

(3)そして、受験生の皆さんにとっては最も大切な偏差値というものが出る業者模擬試験、短く言うと「業者模試」があります。

①ここ北関東の栃木県では下野新聞模試、群馬県では群馬統一テスト、茨城県では茨城統一テスト、埼玉県では北辰テストなどがほとんど毎月のようにあります。

②多くの学習塾や予備校では、業者模試の結果が返却されるときに担任の先生と受験生の間で相談会が行われます。

(4)それから、学校での進路相談会も度々あります。保護者と生徒、先生の三者が一緒に進路相談をする、いわゆる三者面談もあります。中学校3年生・高校3年生など受験生だけの進路相談会もあります。

(5)さらに、そろそろ終わってしまうかもしれませんが、その学校に興味関心のある方を対象とした学校公開日には、進学を希望する学校を訪問するということがあります。

6. このように、受験生の皆さんには様々な学校行事や定期テスト、模擬試験、学校での進路相談会、進学を希望する学校の公開日訪問などがほとんど毎週のように行われます。

7. 受験生にとって2学期は本当に忙しく、8月下旬からスタートし、9月、10月、11月、12月はあっという間に過ぎてしまいます。そして、あっという間に冬が来て、年の暮れ、お正月が過ぎあっという間に試験だということが毎年毎年のことになっています。

8. 高校入試はお正月明けに私立高校の学業特待試験が行われ、大学入試の場合は大学入試センター試験が1月中旬に行われますので、非常に忙しいです。

9. では、そのように超多忙な2学期を前にして、受験生として夏休みをどのように過ごしたらよいのでしょうか。答えはだいたいわかると思います。2学期は本当に忙しくてあっという間に3学期になってしまい、あっという間に入学試験の日が来てしまいますので、比較的時間の取れる夏休みは毎日ひたすら勉強することがよいのではないかと思います。時間の取れる夏休み中に自分の行きたい学校に合格できるだけの学力を確保する、自分の行きたい学校に合格できるだけの学力に一步でも近づく、それが一番大事なことです。

10. 学力が合格ライン(ボーダーライン)のギリギリのところにいる人は、夏休みの間に一步でも合格ラインに近づいて2学期を迎える必要があると思います。2学期になったら勉強しよう、2学期になってから勉強すれば間に合うなどと思っていると、先程お話ししたように2学期は非常に忙しくてあっという間に終わってしまいますので、学力は思うように身につけません。ですから、夏休みをどう過ごすかで2学期からの運命が決まってしまう。「夏休みは受験の天王山」とよく言われますが、本当にその通りで、この夏休みの40日間をいかに過ごすかで受験生の運命が決まると言えます。ただ、40日間と言いましたが、学校によっては補習を組んでいるところもたくさんあります。また、9月1日ではなく8月下旬から始まる学校もたくさんありますので、正味40日間はないかもしれません。この40日弱の夏休みをいかに過ごすかで受験生の皆さんの運命が決まりますので、有効に使っていただきたいと思います。

11. 有効に使うときに一番大事なことは何か、それは「受験生としての自覚を持って過ごす」ことです。「自分は来年の1月から3月までの間に〇〇高校を受験するのだ」、「自分はあと数か月後に〇〇大学の〇〇学部を受験するのだ」というように、自分で決めた自分の行きたい学校を受験し合格するのだという「受験生としての自覚」を持つことが最も大事だと思います。「受験生としての自覚」を持った上で、いろいろなことをフルに活用して、今、この夏にやるべきことを全力を集中して行ってくださいね。
12. 例えば、県や市、町などの公立図書館で勉強すると決めた方はそこで勉強してください。ただ、公立図書館は夏休みは混んでいるところが多いので、ゆっくり行ったのではよい席が取れません。ですから、図書館で勉強しようと考えたのであれば、朝早く出掛けて一番よい席を確保し、閉館時間までひたすら机に向かうことです。私は、足利学校の中に以前は遺跡図書館がありましたので足利学校でよく勉強をしていました。また、学校も開いているところが多いですから、学校の教室で勉強することもできます。学校の図書室も開いている場合がありますので、利用して勉強してください。大学の図書館でも小中高生が使えるところが多いので、大いに活用してくださいね。
13. 私が高校生のときには、同級生の皆さんは学校に行って勉強していたようです。私は栃木県立足利高校に行っていたのですが、夏休みが終わった頃に皆さんの様子を聞いていると、休み中は学校に毎日来て、暑いのでバケツに水を入れてその中に足を入れてながら勉強していた方が同じクラスの50名中10数名いました。私はそれを知らないで、うっかりと違う過ごし方をしてしまいました。気がついたのは何と高校3年生のときで、もったいない夏休みの過ごし方をしたなと思いました。1年生・2年生のときからそのようなことをしていた人がいると聞き、3年生になって夏休みに学校に行ってみました。すると本当にバケツの中に足を入れて机に向かっている人がいるのを見て本当にびっくりしました。
14. 学習塾や予備校の夏期講習会に行く人は、事前にテキストやプリントが配られるのでテキスト・プリントだけは必ず予習をしてから授業に出るとよいですね。予習では、辞書でわからない語句調べをすること、問題はできるだけ解いておくこと、わからないところは何かをはっきりさせておくことが大事です。そして、授業が終わったら必ずそのプリントやテキスト、授業中のノートの復習をする。ただ、夏期講習会に出席して先生の授業を聞いているだけでは先生の授業を「うんなるほど」とその瞬間は理解できても、繰り返ししっかりと復習をして定着させないと成績は急上昇しません。繰り返し、繰り返し復習をしてスミからスミまで覚え切る、それが夏期講習会に出るときに一番大事なことです。また、復習をするときにもわからない語句は辞書で必ず意味を調べること、音読練習、書き取り練習、計算・問題練習を繰り返すことも大事です。これも是非守っていただきたいと思います。

今日は、受験生にとって効果の上がる夏休みの過ごし方についてお話をさせていただきました。

— 2013年10月28日加筆・訂正、林明夫 —